

河川砂防技術研究開発公募 河川・水防災技術分野  
平成29年度採択テーマ 中間評価結果

(中間評価2年目)

テーマ名および概要		提案者名	評価	中間評価コメント
テーマ	落差工周辺の河床構造物の安定性評価のための水・地盤連成解析手法の高度化	長岡技術 科学大学 大塚 悟	b	小規模模型実験、構造物近傍の詳細計算を実施するとともに、計算結果の検証を行うなど一定の進捗は認められ、研究は順調に実施されている。 今後は、実験結果をより効果的に活用することで、水・地盤連成解析手法を高度化し、現場実装に向け研究を進展されることが期待される。
概要	河川を横断する落差工周辺の河床構造物の安定性を評価するための数値実験、および室内実験による研究を実施した。河川工学と地盤工学における室内実験と数値解析技術を高度化して、河床構造物の安定性評価に適用することを主要な目的とする。最新の数値モデルと室内実験によって、構造物の破壊局面を支配するメカニズムについて検討し、これらの知見を河川行政における河川構造物の安全性照査の手法に応用することを目指す。			
テーマ	河床変状に伴う横断構造物の破壊過程の把握と補修基準設定に関する研究	群馬大学 清水 義彦	b	河床低下に起因する河川横断構造物の破壊プロセスが把握されつつあり、一定の進捗は認められ、研究は順調に実施されている。 今後は、構築した解析手法を用いて河川横断構造物の破壊に至る河床変状を整理するなど、河川横断構造物の補修基準の設定等、現場実装に向けた研究を進展されることが期待される。
概要	本研究は、河床低下に起因して生じる横断構造物の破壊に至るプロセスを明らかにし、今後の維持管理に向けた健全度評価や管理指標について提案するものである。 事例調査から想定される破壊メカニズムをフォルトツリーとして整理し、水理模型実験を通じて検証する。ここで得られた破壊過程を再現可能な数値解析手法(粒子法モデル)を開発し、破壊の進行と破壊限界流量の関係を把握することで横断構造物の補修基準を設定する。			

(氏名五十音順、敬称略)

評価の凡例

- a: 研究が順調に実施されており、引き続き研究を推進する。
- b: 指摘事項に留意の上、引き続き研究を推進する。(指摘事項あり)
- c: 指摘事項を踏まえ研究計画を修正の上、研究を推進する。(指摘事項、条件付き)
- d: 現在までの進捗状況に鑑み、研究目的の達成が困難であるため、研究を終了する。